

令和 7年度 園評価書

園番号 6

静岡市立清沢こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かでたくましい子	”すき”をみつけよう はじめてみよう	子ども達はときめく環境の中で、おもしろいを見つけ、意欲や自信をもって夢中になって遊んでいる	・子ども達の「おもしろい、やってみたい」を見逃さず、遊びの中に取り入れることで夢中になって遊んでいる。また、やっていた気持ちを実行できる時間と場所を確保することで、何日も続けて楽しむ姿が見られる ・毎月、保育者が環境を検討し、再構成することで、自ら遊びだし「やってみる」から「～したらどう」と試行錯誤する姿が増えている。継続して環境を整えていきたい	B	A	・園の環境が人も遊ぶ物も、教材等も街では出来ない経験や山出ししている。また、前向きな良い方向で捉え、出すきない手立て、わくわくする環境、先生方の教育に対する見方、考えがすばらしい ・年度当初の頃、園児の姿を比べるとそれぞれの園児がたくましく成長している ・自分の意見を伝え、自ら行動し友達への思いも受け入れられる様子に感心する ・園児が少ない中、子どもたちの日頃の遊びを運動会や生活発表会で取り入れられ、お互い助け合い、思い合っている様子も伺いられる ・行事等にお便りを園児に届けに行くたびに、子どもたちが遊びの楽しさを語ってくれたり、作品を見せてくれたりしてくれる	・子ども達の実態を把握し、「なぜ?どこで?」等の子どもが興味を示していることを職員間で周知していく ・子どもの興味が、より広がっていくよう、タイミングを見極めて、再構成をしていく ・子どもが伝えようとする姿を温かく受け入れ、自分の思いが伝わってうれしいと思える経験や体験を、積み重ねていく ・日常生活の中で、相手にも思いがあることを保育者が立ち会いながら伝えていく ・子ども達と散歩に出かけ、地域の方と挨拶を交わしたり、話をしたりして交流する場を作っていく
		友だちと関わる中で、自分の思いや考えを言葉で表現したり、伝えようとしている	・園と家庭とで思いを受け止められているので、自分の意見を伝えたり、少しずつ聞くことができている。年長児は相手”いいね”と良い所を伝える姿がみられる ・自分の思いを強く主張してトラブルになった際には、思いを受け止めた友達の気持ちを伝えることで、少しずつ相手の気持ちに気づけるようになっている。また、言葉が強くなったりするので、優しい言葉で伝えるようにしていきたい	A	A		
		身近な人と笑顔で心地よい挨拶を交わしている	・保育者が地域の方と交流する様子を見ているので、散歩で出会った方や園に来て下さった方に、元気に挨拶したり、「何しているの?」「見て、〇〇できるんだよ」と興味や関心をもって自分から関わる姿が見られる	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)	
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	大きい子への憧れの気持ちを持ちたり、小さい子に遊びの伝承する交流の機会を大切に、優しさや思いやりの気持ちを育んでいる	・行事の時だけでなく、日々の保育の中で年少児が年長児への憧れの気持ちを持ち、真似たり、一緒に遊ぶ姿がある。年長児が年少児を見守ったり、優しく声をかけたり、互いにより刺激を与えている ・少人数なので年齢に関係なく、生活の仕方や遊び方などを教えたり、一緒に遊んだりして接することができる	A	A	・子どもが少ない園ということもあり、家庭の事情に合わせて対応してくれている ・子育て支援に遊びに来たお友だちにも優しく接したり声かけをしてあげている ・「自分でできる」を守れるところが良く、その中でも時間や、次は何と見通ししていくところも先生方の手立でのすばらしさだと思う ・園で学んだことを教えてくれたり、実践する姿をみているとしっかりと教え合っているのが分かる ・子どもが楽しいと思える園の雰囲気作りができていく	・子どもの人数が少ないので、遊びの継承が難しいこともある。他園や地域の方との交流を年間計画で明確にし、実践していく	
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	子どもが身支度や後始末を自分でできるように一人一人に寄り添った手だてをしている	・園児数が少ないということもあり、個々の育ち(発達段階)に応じた手だてを考え、対応している(手取表、午睡時間、部屋の視覚的支援等) ・部屋の必要なものを取り出しやすく、片付けしやすいうように配置し、掲示も工夫をしている。自分から身支度を行おうとする姿があるが、子ども同士で声を掛け合っている。今後も随時やりやすい環境を再検討していきたい	B	A		・自ら行動する姿を認め、自信につながるような働きかけをたくさん行っていく ・家庭環境の違いを踏まえ、その都度、子どもの発達に合わせた掲示(視覚的支援)や声掛けを行っていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	園内や地域の自然に触れる体験を十分に、感動や喜びを感じられるようにしている	・清沢の地域散策に出かけ、川で橋作りをしたり笹舟を流したり、スキューバダイビングを使ったりした地域の自然物を使った遊びができていく ・園内に自然物(どんぐり・まほうばっくり・小枝等)をいつでも手に取って製作できる環境を工夫しているので、拾ってきた自然物を使った工作や製作を楽しんでいた ・園内研修の学びを実践することで、自然に触れる楽しさを広げることができた	A	A	・清沢の自然をいかした遊びや学び、作品作りができていくすばらしかった ・つながりを大事にしていて、その場その場のみではなく次につながるストーリーを作っている ・防災訓練も様々な事を想定して行われ、自分も参加してみたいと思った ・防災訓練についてもマンネリ化になりやすい中、工夫され、学んできたことを生かして子どもたちの防災意識を高めているところがすばらしい ・自分で栽培した野菜はおいしいと思います ・園児それぞれの発達に応じた自由な保育がされているので、園児も伸び伸びと育っている ・職員同士、職員から保護者へも共有することを大切にしていることが、教室、環境やおたよりから伝わってきます	・子どものお小さな発見や、つぶやきに丁寧に対応しながら、様々な体験から楽しむ遊びが深まるようにする ・地域の散策計画(年間)、どんなことをねらいにし、自然と触れ合わせいくかなど、明確にしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	年間計画に沿った訓練を行い、自ら考えて危険を回避する力が育つよう指導している	・毎月、様々な訓練を実施することで、子ども達が危険な場所を認識できるようになってきたり、危険を回避する気持ちが育ってきている ・職員が滅災研修の学びから毎月の訓練では、想定外の危険を口頭で伝えるようになり、子どもたちの伝達の仕方や訓練の仕方が変化した(土砂の様子を砂や水で見たり、仮設トイレやテントを組む等) ・山間部ならではの安全対策について考えながら今後も訓練を行うようにしたい	A	A	・防災訓練についてもマンネリ化になりやすい中、工夫され、学んできたことを生かして子どもたちの防災意識を高めているところがすばらしい ・自分で栽培した野菜はおいしいと思います ・園児それぞれの発達に応じた自由な保育がされているので、園児も伸び伸びと育っている ・職員同士、職員から保護者へも共有することを大切にしていることが、教室、環境やおたよりから伝わってきます	・想定外の自然災害に備えた訓練を職員間で検討し、色々なバリエーションの訓練を積み重ねていく ・交通ルールを守るように、歩き方のルールを徹底し、地域散策を行っていく	
		健康診断や手洗いうがいを実践し、感染予防につなげたり、食育活動を通して「食」について子どもの関心が広がるように実践している	・食育の日だけでなく毎日の給食の食材や調べることで、元氣に楽しく食事を摂る習慣を身に付け、子ども同士で「〇〇しよう」と声を掛け合う姿もある。保健指導も月ごとテーマを決め、やっていたい	B	A		・食育の日の取り組みを継続していくと共に、子ども達が楽しくおいしく食べられる工夫(栽培、クッキング等)をしていく ・保健指導では、期事のテーマを決め、実践していく	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	保育教諭は子どもの発達や個性を共有、理解しながら個々に応じた支援を行っている	・子どものケース会議や様々な研修に職員が参加し、学びを職員間で報告・共有することで、援助方法をみんなで考え実践している ・月2回の話し合いや日々の中で、個々の個性や取り巻く環境、配慮事項、成長の姿等の理解を深めているが、個々に応じた支援方法を実践する中で難しい場面もある	B	A		・職員間で子どもの個性を共有する機会を作り、支援の手立てを意識しながら丁寧に関わっていく	
		(1)組織体制の充実	全職員が自ら園務分掌に責任を持ち、連携しながら運営を進めている	・全体的計画を計画的に進められるよう話し合ったり、職員間で声を掛け合いながら進めているが、職員によって園務分掌の量が違い、共有が難しい。職員会議等で進捗状況を報告し助け合っている ・自分が何をすべきか、同分室内で話し合ったり確認したりして、責任をもって進めている	B	A		・各分掌担当が企画や運営を行う中で、役割を細かくし一人一人が責任をもって実践していく。また、進捗状況を職員間で確認しながら、声を掛け合い、進めていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	保育教諭は子どもの発達や個性を共有、理解しながら個々に応じた支援を行っている	・子どものケース会議や様々な研修に職員が参加し、学びを職員間で報告・共有することで、援助方法をみんなで考え実践している ・月2回の話し合いや日々の中で、個々の個性や取り巻く環境、配慮事項、成長の姿等の理解を深めているが、個々に応じた支援方法を実践する中で難しい場面もある	B	A		・職員間で子どもの個性を共有する機会を作り、支援の手立てを意識しながら丁寧に関わっていく	
		(1)研修体制の充実	保育教諭は研修テーマの手立てに対して、日々振り返りを行い、研修での学びを保育に活かしている	・月2回の園内研修を行い、日々の子どもの姿を環境構成、月反省や次月の月案を共有し、保育に活かしている ・月末には、子ども一人一人の「いいね」の共有や研修テーマの手立ての検証を行っているが、子どもの実態から必要な環境を整えることが間に合わないこともあった	B	A		・様々な園内研修を実施していく中で、職員が気づいたことを短時間で語り合いながら、濃い研修となるようにペーパー化できるところは改善していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	保育教諭は子どもの発達や個性を共有、理解しながら個々に応じた支援を行っている	・子どものケース会議や様々な研修に職員が参加し、学びを職員間で報告・共有することで、援助方法をみんなで考え実践している ・月2回の話し合いや日々の中で、個々の個性や取り巻く環境、配慮事項、成長の姿等の理解を深めているが、個々に応じた支援方法を実践する中で難しい場面もある	B	A		・職員間で子どもの個性を共有する機会を作り、支援の手立てを意識しながら丁寧に関わっていく	
		(1)研修体制の充実	保育教諭は研修テーマの手立てに対して、日々振り返りを行い、研修での学びを保育に活かしている	・月2回の園内研修を行い、日々の子どもの姿を環境構成、月反省や次月の月案を共有し、保育に活かしている ・月末には、子ども一人一人の「いいね」の共有や研修テーマの手立ての検証を行っているが、子どもの実態から必要な環境を整えることが間に合わないこともあった	B	A		・様々な園内研修を実施していく中で、職員が気づいたことを短時間で語り合いながら、濃い研修となるようにペーパー化できるところは改善していく
6 研 修	(1)研修体制の充実	保育教諭は子どもの発達や個性を共有、理解しながら個々に応じた支援を行っている	・子どものケース会議や様々な研修に職員が参加し、学びを職員間で報告・共有することで、援助方法をみんなで考え実践している ・月2回の話し合いや日々の中で、個々の個性や取り巻く環境、配慮事項、成長の姿等の理解を深めているが、個々に応じた支援方法を実践する中で難しい場面もある	B	A		・職員間で子どもの個性を共有する機会を作り、支援の手立てを意識しながら丁寧に関わっていく	
		(1)研修体制の充実	保育教諭は研修テーマの手立てに対して、日々振り返りを行い、研修での学びを保育に活かしている	・月2回の園内研修を行い、日々の子どもの姿を環境構成、月反省や次月の月案を共有し、保育に活かしている ・月末には、子ども一人一人の「いいね」の共有や研修テーマの手立ての検証を行っているが、子どもの実態から必要な環境を整えることが間に合わないこともあった	B	A		・様々な園内研修を実施していく中で、職員が気づいたことを短時間で語り合いながら、濃い研修となるようにペーパー化できるところは改善していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	保育教諭は子どもの発達や個性を共有、理解しながら個々に応じた支援を行っている	・子どものケース会議や様々な研修に職員が参加し、学びを職員間で報告・共有することで、援助方法をみんなで考え実践している ・月2回の話し合いや日々の中で、個々の個性や取り巻く環境、配慮事項、成長の姿等の理解を深めているが、個々に応じた支援方法を実践する中で難しい場面もある	B	A		・職員間で子どもの個性を共有する機会を作り、支援の手立てを意識しながら丁寧に関わっていく	
		(1)研修体制の充実	保育教諭は研修テーマの手立てに対して、日々振り返りを行い、研修での学びを保育に活かしている	・月2回の園内研修を行い、日々の子どもの姿を環境構成、月反省や次月の月案を共有し、保育に活かしている ・月末には、子ども一人一人の「いいね」の共有や研修テーマの手立ての検証を行っているが、子どもの実態から必要な環境を整えることが間に合わないこともあった	B	A		・様々な園内研修を実施していく中で、職員が気づいたことを短時間で語り合いながら、濃い研修となるようにペーパー化できるところは改善していく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は保護者と子どもの育ちや保育内容を共有できるよう、お便りやボード等でわかりやすく伝えている	・コドモンやクラスだより、手作りのドキュメンテーション等で日々の子ども達の姿を保護者に発信している。また、送迎時にその日の姿を伝えている。引き続き信頼関係を深めていきたい ・給食メニューをコドモンで配信すると共に、おやつメニューも健康等、食育向上をめざしていきたい	A	A		・送迎時に園での子ども達の様子や、iPad等で写真を使いながら、保護者に分かりやすく伝えていく ・年度当初に、コドモンでの配信がどのような意図をもって行っているのか保護者に伝え、共有していく	
		(1)近隣の園との連携の推進	園は近隣の小学校や近隣園との交流に積極的に参加し、情報交換や研修を進めている	・近隣の小学校や園との交流を積極的に進めてきた結果、小中学校からお誘いをいただけるようになり、より良い関係につながっていると感じる。昨年度よりも小学校との交流ができ、年長児は就学に憧れや期待感をもち、楽しみにする姿がある ・近隣園や小学校が自園の公開保育や行事に参加していたり、職員が他園の公開保育、公開授業に参加し、職員間で情報共有をしている	A	A	・中薬科こども園など他園にも足を運んで多くの子どもとかわりを持つところもいいですね ・中薬科小の1年生が交流日の前日、小学生も「清沢こども園に行くんだ、楽しみ」と言っていた ・清沢合唱団との交流では、メンバーが園児の歌を聴いて「可愛かった、上手」と言っていた ・運動会、発表会では、園児は出ずっぱりだが、頑張って発表しすばらしかった	・小学校や近隣園と連携を図り、計画的に進めていく ・他園の公開保育や小学校の授業を参観しながら、子どもの育ちや学びを共有していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	園は近隣の小学校や近隣園との交流に積極的に参加し、情報交換や研修を進めている	・近隣の小学校や園との交流を積極的に進めてきた結果、小中学校からお誘いをいただけるようになり、より良い関係につながっていると感じる。昨年度よりも小学校との交流ができ、年長児は就学に憧れや期待感をもち、楽しみにする姿がある ・近隣園や小学校が自園の公開保育や行事に参加していたり、職員が他園の公開保育、公開授業に参加し、職員間で情報共有をしている	A	A	・中薬科こども園など他園にも足を運んで多くの子どもとかわりを持つところもいいですね ・中薬科小の1年生が交流日の前日、小学生も「清沢こども園に行くんだ、楽しみ」と言っていた ・清沢合唱団との交流では、メンバーが園児の歌を聴いて「可愛かった、上手」と言っていた ・運動会、発表会では、園児は出ずっぱりだが、頑張って発表しすばらしかった	・小学校や近隣園と連携を図り、計画的に進めていく ・他園の公開保育や小学校の授業を参観しながら、子どもの育ちや学びを共有していく	
		(1)信頼される園づくりの推進	園は豊かな体験が得られるよう、地域の方と関わる機会を大切に、体験的な学びを深めている	・地域での取組体験、鮎掴み、ビザ作り、清沢焼、大根否など地域の散策、門松作りなど様々な地域の方のご厚意でたくさん経験させていくことができた ・清沢秋祭り、清沢神楽、天狗さん、自習学習や清沢合唱団の方々と交流をもち、様々な人とのかわりや豊かな体験をすることができた。今後も地域の方とのかわりを大切にしていきたい	A	A		・地域の方と園児との交流を大切にしながら、地域密着の園作りを努めていく ・おしゃべりサロンで園児の日頃の取り組みを紹介する機会を作り、交流を図っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園は豊かな体験が得られるよう、地域の方と関わる機会を大切に、体験的な学びを深めている	・地域での取組体験、鮎掴み、ビザ作り、清沢焼、大根否など地域の散策、門松作りなど様々な地域の方のご厚意でたくさん経験させていくことができた ・清沢秋祭り、清沢神楽、天狗さん、自習学習や清沢合唱団の方々と交流をもち、様々な人とのかわりや豊かな体験をすることができた。今後も地域の方とのかわりを大切にしていきたい	A	A		・地域の方と園児との交流を大切にしながら、地域密着の園作りを努めていく ・おしゃべりサロンで園児の日頃の取り組みを紹介する機会を作り、交流を図っていく	